

懐かしい写真（2）

写真は大阪市大の杉本町キャンパスである。大学本館前で開かれた「院生集会」、その後のキャンパス内のデモ行進である。

写真上のうしろで立っているのは私である。経営学研究科の院生協議会（略して経営院協）の役員であり、集会「警備役」を担当していた。はっきりした記憶はないが、1974年か75年6月だったと思う。大阪市大では一部学生による学内での暴力、教室などの封鎖が続いていた。



信州大学の2年から3年次にかけて、激しい「大学紛争」「人文闘争」なる時代を過ごした。当時の写真を探したが、なかなか見つからない。どこかで写真を手に入れ、「わが青春」時代をじっくりレポートしたいものだ。その後、大半の大学は静けさを取り戻したが、ここ大阪市大は「紛争」が絶えなかった。



それで経営院協をはじめ、経済・法・文などの院協が連帯して集会を企画し、デモ行進して学内にアピールした。いつ「暴力学生」が襲ってくるか分からず、緊張しながら集会・デモをしたことを覚えている。40年ほど前のことで、今では考えにくい大学の「光景」であろう。写真には懐かしい院生仲間の顔を見ることができる。大半の院生は「研究職」を求めていたので、大学の教員になった人も多い。法院協で活躍したIさんなどは、今でも関西の私大で活躍している。

大学院時代については、前にもレポートしたが、もう一度ざっと振り返っておきたい。1971年3月に信州大をなんとか卒業して、大学院進学をめざして大阪に向かった。親に反対され、松本に「淡い別れ」を残して。とにかく大学近くに下宿し、2年にわたるアルバイトと「浪人生活」。図書館通いと宮本憲一先生の大学院ゼミ「もぐり」参加が忘れられない。1973年4月に晴れて院生となり、修士論文の準備と執筆、堺・泉北コンビナートの共同研究、経営院協などの活動、そして「恋」から結婚へと、時は流れていった。1975年4月に博士課程進学、研究活動と共同研究の事務局、我孫子町「中川マンション」の新婚生活へと続く。1979年4月、名古屋市立女子短大になんとか職を得ることができた。こうして懐かしい写真から振り返ると、偶然と運、さらに良き先生や友人に恵まれていたと思う。

(2016年5月29日)